

水道管の凍結対策

水道管は、気温がマイナス4℃以下になると凍結しやすくなります。水道管が凍結してしまうと、水が出なくなるばかりでなく、水道管や蛇口が破裂するおそれもあります。凍結しないうちに、早めに対策を行いましょう。



凍結しやすいところ

☆屋外でむき出しになっている（保温材が損傷している）

風当たりの強い建物の北側は、特に注意が必要です。保温材が損傷していたり、壁と保温材に隙間があったりする場合は、そこから凍結する可能性が高くなります。

☆給湯器本体および給湯器回りの給水管・給湯管

一般的な給湯器には凍結防止機能が組み込まれています。ただし、電源プラグを抜くと作動しないため、注意してください。

詳しくは、機器取扱説明書で確認してください。

凍結させないために

☆水道管や屋外水栓を保温しよう

むき出しになっている水道管は、発泡スチロール製の保温材を取り付けると効果的です。ただし、保温材が損傷していたり、外れていたりすると、凍結しやすくなります。定期的に点検や取替えをしてください。

凍結防止ヒーターの取付けはより効果的です。それ以外にも水道管や給湯器等の水を抜いておくことで凍結防止になります。

☆水を出しておこう

強い冷え込みが予想されるときは、前夜から少量の水を蛇口から出しておくことも凍結防止に有効です。

※出した分の水には料金がかかります。出し過ぎには注意してください。



凍結してしまったら

蛇口や水道管が凍結してしまったら、自然に解けるのを待ってください。水道を早く使用したい場合は、蛇口を全開にしてタオル等を当て、上からぬるま湯（約50℃）をかけてゆっくり解凍してください。

※熱湯をかけると水道管が破裂するおそれがありますので、熱湯は使わないでください。

破裂の被害を防ぐために

止水栓（元栓）の位置を普段から確認し、操作できる状態にしておくことが重要です。

凍結するおそれのある冬期間に、空き家やマンション・アパートの空き部屋、普段人がいない施設などで常時水道を使用しない場合は、止水栓を閉めておくと破裂による被害を防ぐことができます。

■ 止水栓（元栓）の位置を確認しよう！



時計回りで止まります

破裂してしまったら

メーターボックス内の止水栓を閉めて水を止めます。応急処置として破裂した部分に布かテープをしっかり巻いて、「阿賀野市指定給水装置工事業者」へ修理の依頼をしてください。

□お問い合わせ□

阿賀野市上下水道局 電話（0250）62-2159（営業時間外は大室浄水場に転送されます）